

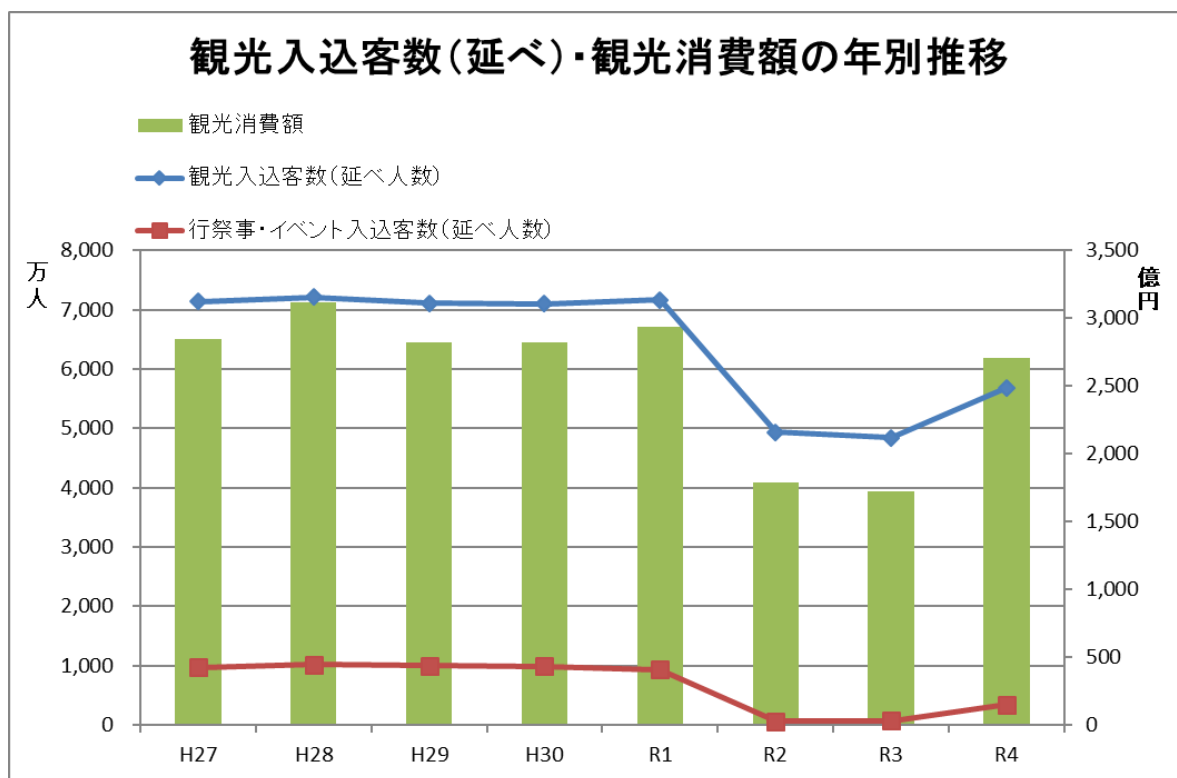
令和4年岐阜県観光入込客統計調査



令和5年11月

岐阜県観光国際部観光国際政策課

1 観光入込客数（延べ）・観光消費額



区 分		R 4 [2022]年	参考：R 3 [2021]年	参考：R 1 [2019]年
観光入込客数 (延べ人数)		5,683万8千人 (対R3年比 + 17.5%) (対R1年比 Δ 20.6%)	4,837万9千人	7,162万人8千人
行祭事・イベント 入込客数(延べ人数)		338万8千人 (対R3年比 + 352.9%) (対R1年比 Δ 63.8%)	74万8千人	935万4千人
観光入込客数 (実人数)		4,262万6千人 (対R3年比 + 11.0%) (対R1年比 Δ 11.2%)	3,841万6千人	4,799万5千人
内 訳	日帰り客	3,756万5千人 (対R3年比 + 7.2%) (対R1年比 Δ 10.2%)	3,504万7千人	4,182万人
	宿泊客	506万1千人 (対R3年比 + 50.2%) (対R1年比 Δ 18.0%)	336万9千人	617万5千人
	【うち外国人】	【10万4千人】 (対R3年比 + 363.5%) (対R1年比 Δ 91.1%)	【2万2千人】	【116万7千人】

区 分		R 4 [2022]年	参考：R 3 [2021]年	参考：R 1 [2019]年
観光消費額		2, 7 0 2 億 4 7 百万円 (対 R3 年比 + 57.0%) (対 R1 年比 Δ 7.9%)	1, 7 2 1 億 4 1 百万円	2, 9 3 2 億 8 3 百万円
内 訳	日帰り客	1, 3 5 6 億 5 2 百万円 (対 R3 年比 + 40.7%) (対 R1 年比 Δ 7.2%)	9 6 4 億 2 7 百万円	1, 4 6 1 億 3 3 百万円
	宿泊客	1, 3 4 5 億 9 5 百万円 (対 R3 年比 + 77.8%) (対 R1 年比 Δ 8.5%)	7 5 7 億 1 4 百万円	1, 4 7 1 億 5 0 百万円

※千人未満を四捨五入しているため、対前年比に誤差が生じることや、内訳の計と合計が一致しないことがある。

※宿泊客の「うち外国人」については、観光庁の宿泊旅行統計調査における本県の外国人延べ宿泊者数をもとに算出している。

(令和4年外国人延べ宿泊者数 12.2万人)

- **観光入込客数（延べ人数）**
 - ・ 5, 6 8 3 万 8 千人（対前年比+17.5%）となり、前年に比べ増加した。
- **行祭事・イベント入込客数（延べ人数）**
 - ・ 3 3 8 万 8 千人（対前年比+352.9%）で、前年に比べ増加した。
- **観光入込客数（実人数）**
 - ・ 4, 2 6 2 万 6 千人（対前年比+11.0%）と、前年に比べ増加した。
- **観光消費額**
 - ・ 総額は 2, 7 0 2 億 4 7 百万円（対前年比+57.0%）で、うち日帰り客分は 1, 3 5 6 億 5 2 百万円（対前年比+40.7%）、宿泊客分は 1, 3 4 5 億 9 5 百万円（対前年比+77.8%）であった。
- **主な傾向**
 - ・ 令和4年は第一四半期（1月～3月）、まん延防止等重点措置区域の指定により行動制限を受けるなど、新型コロナの影響を大きく受けたものの、第二四半期以降（4月～）は、県民割(4/5-28)、ブロック割(5/9-10/10)、全国旅行支援(10/11-12/27)と、順次対象を拡大実施した旅行割引キャンペーン等により、観光需要が拡大し、観光入込客数は前年に比べ大きく増加した。
 - ・ インバウンドについては、個人旅行者の受入れ再開が10月からであったため、令和4年中は本格的な回復には至らなかった。
 - ・ 観光消費額についても、旅行割引キャンペーン等が、旅行単価の上昇に繋がり、一人あたり平均消費額が大きく増加した。

日帰り： 2,751円 → 3,611円 (対前年比+ 31.3%)
 宿泊客： 22,473円 → 26,594円 (対前年比+ 18.3%)

2 観光地点別の集客数（県内トップ10）

(単位：万人)

順位	観光地点名	入込客数	参考：R3[2021]年		参考：R1[2019]年	
			順位	入込客数	順位	入込客数
1	土岐プレミアム・アウトレット	493.0	1	502.1	1	668.3
2	河川環境楽園	408.9	2	352.1	2	477.5
3	高山市街地エリア	229.4	4	137.9	3	382.7
4	湯の華アイランド	161.7	3	147.0	5	168.5
5	伊奈波神社	130.3	7	98.2	7	147.5
6	養老公園	123.5	—	—	—	—
7	千本松原・国営木曾三川公園	112.6	5	120.5	9	136.4
8	千代保稲荷神社	110.0	6	101.9	6	160.6
9	岐阜公園	97.6	8	63.5	11	102.2
10	下呂温泉（旅館の宿泊利用及び日帰り利用）	91.3	9	60.4	10	122.5

※「養老公園」については、今回から「楽市楽座・養老」、「養老天命反転地」、「岐阜県こどもの国」の入込客数を含んだ数値を掲載。

- 新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和されたものの、屋外観光施設のニーズが引き続き高く、令和3年に比べ「河川環境楽園」、「岐阜公園」といった公園を中心に入込客数が増加した。
- 令和3年に比べ「高山市街地エリア」が66.4%増、「下呂温泉（旅館の宿泊利用及び日帰り利用）」が51.2%増となるなど、特に飛騨地域の観光地点で入込客数が増加した。

3 行祭事・イベント入込客数（県内トップ10）

（単位：万人）

順位	行催事・イベント名	入込客数	参考：R3[2021]年		参考：R1[2019]年	
			順位	入込客数	順位	入込客数
1	ぎふ信長まつり	62.0	-	-	5	34.0
2	たじみ陶器まつり（春）	18.0	2	15.0	13	16.0
3	チューリップ祭	17.9	1	19.7	10	20.6
4	道三まつり	16.0	-	-	3	38.0
5	高山祭	15.5	12	1.9	2	40.0
6	土岐美濃焼まつり	14.0	-	-	16	14.0
7	各務原市桜まつり	10.0	5	3.2	7	29.0
8	刃物まつり	9.0	8	2.1	-	-
9	郡上おどり	7.2	-	-	6	30.8
10	みのじのみり祭	7.0	-	-	23	10.0

○行祭事・イベント毎の県内トップは、3年ぶりの開催となった「ぎふ信長まつり」（岐阜市）の62.0万人であった。

○コロナ禍において中止されていた行祭事・イベントが再開されたことにより、令和3年より入込客数は大幅に増加した。

4 経済波及効果（試算）

令和4年の県内観光消費による経済波及効果（観光関連産業の経済波及効果）を試算したところ、生産誘発額は3,943億77百万円、就業誘発効果は、35,576人となった。

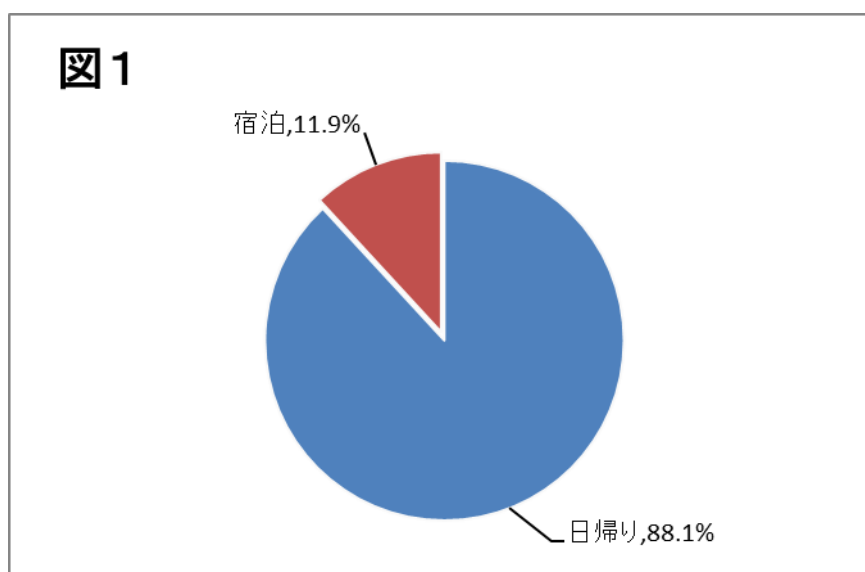
<参考> 旅行者分類別データ

県内観光客の動向をより詳細に分析するため、観光入込客数（延べ）を実人数に換算し、旅行者分類別、県内圏域別の入込客数、外国人宿泊客数等を算出した。

※詳細は、別添「参考表」参照

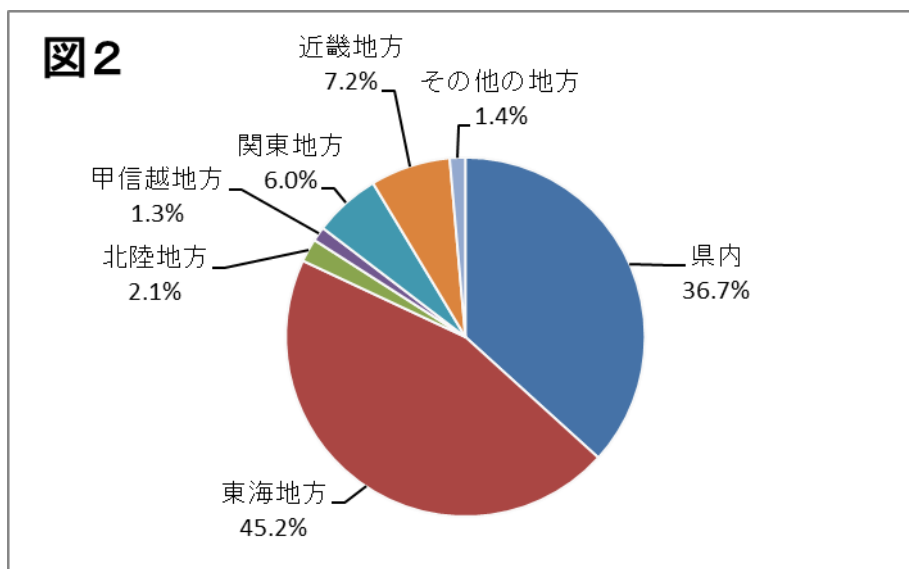
※千人未満を四捨五入しているため、対前年比に誤差が生じることや、内訳の計と合計が一致しないことがある。

(1) 日帰り・宿泊別観光入込客数の割合



令和4年の観光入込客数（実人数）は4,262万6千人であり、日帰り・宿泊別にみると、日帰り客は3,756万5千人（構成比88.1%）、宿泊客は506万1千人（構成比11.9%）であり、依然として日帰り客が多くを占めた。（図1）

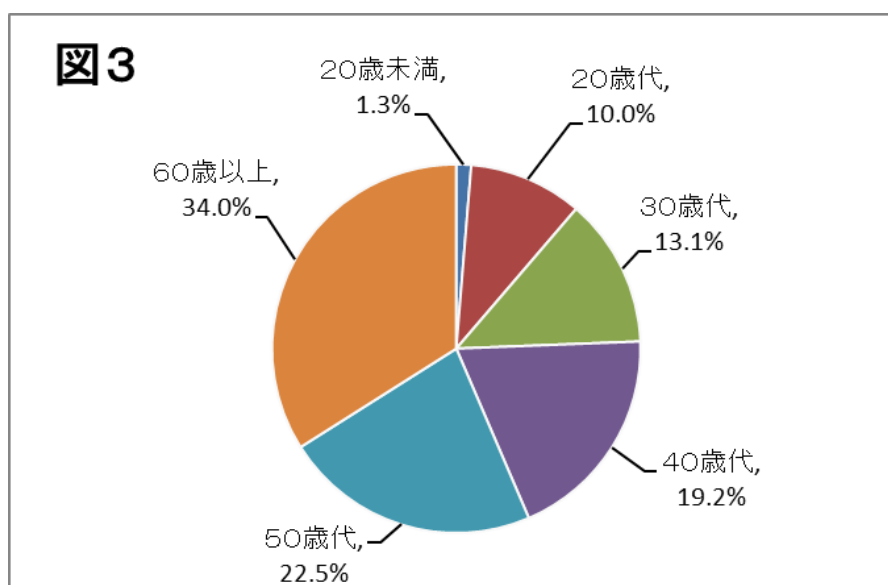
(2) 居住地別観光入込客数の割合



居住地別に見ると、県全体では県内客は1,564万1千人（構成36.7%）、県外客は2,698万4千人（構成比63.3%）と、県外客が多くを占めた。（図2）

県内客の割合はコロナ前の令和元年の32.4%から36.7%に増加しており、新型コロナウイルスの影響により、近隣を目的地とする観光が増えたことや、旅行割引キャンペーンを実施したことなどが要因であると考えられる。

(3) 年齢別・男女別観光入込客数

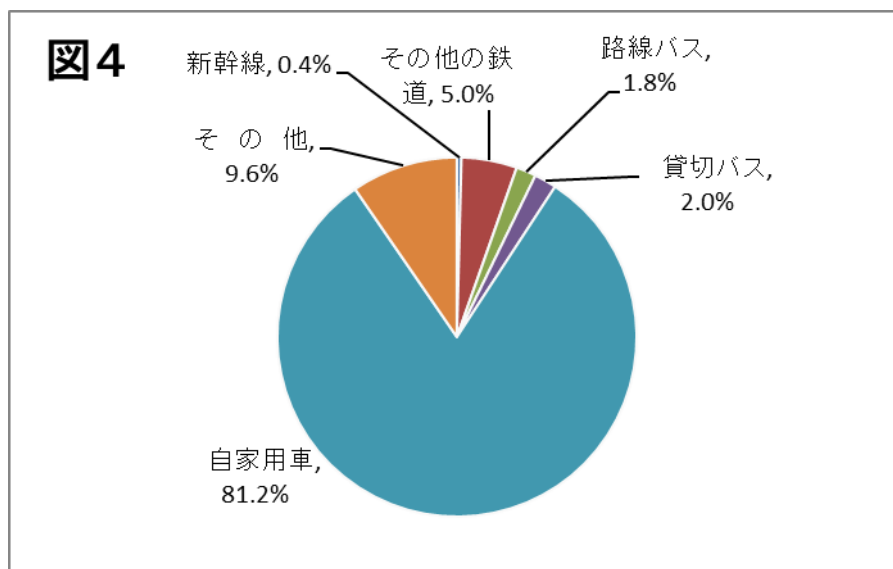


年齢別では、60歳以上が34.0%と最も多く、続いて50歳代、40歳代、30歳代と続く。(図3)

男女別では、男性が2,419万6千人(構成比56.8%)、女性は1,842万9千人(構成比43.2%)と男性が多かった。

60歳以上の割合は令和元年の29.3%から34.0%に増加しており、全国旅行支援が、とりわけ平日の観光促進を図る内容であったことから、平日に観光しやすい高齢層が増えたと考えられる。

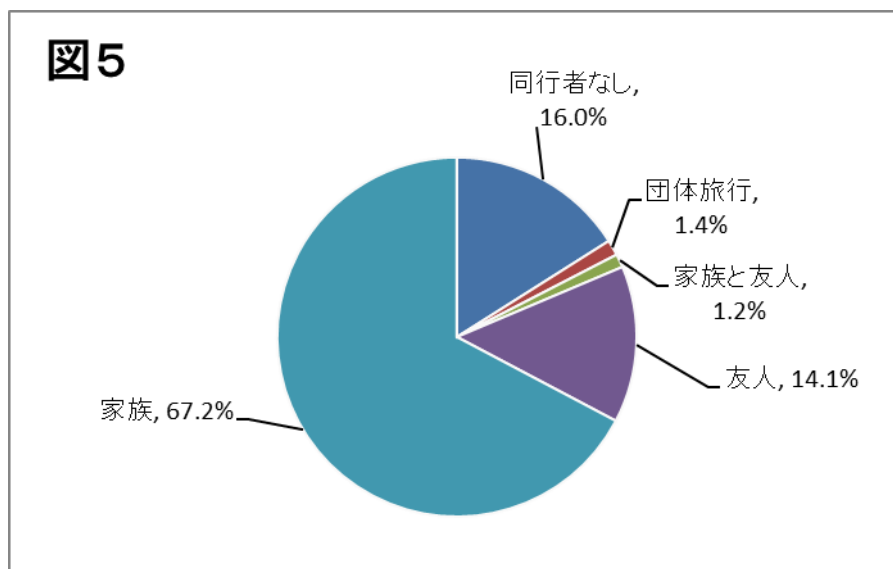
(4) 利用交通機関別観光入込客数



利用交通機関別に見ると、自家用車が最も多く全体の81.2%を占め、鉄道や路線バスなどの公共交通機関の割合は低い。(図4)

コロナ前の令和元年と比較すると、貸切バス(3.4%→2.0%)、新幹線(1.1%→0.4%)、その他の鉄道(6.9%→5.0%)の割合が減っており、新型コロナウイルスの影響により、団体ツアーや公共交通機関の利用が減ったと考えられる。

(5) 同行者別観光入込客数

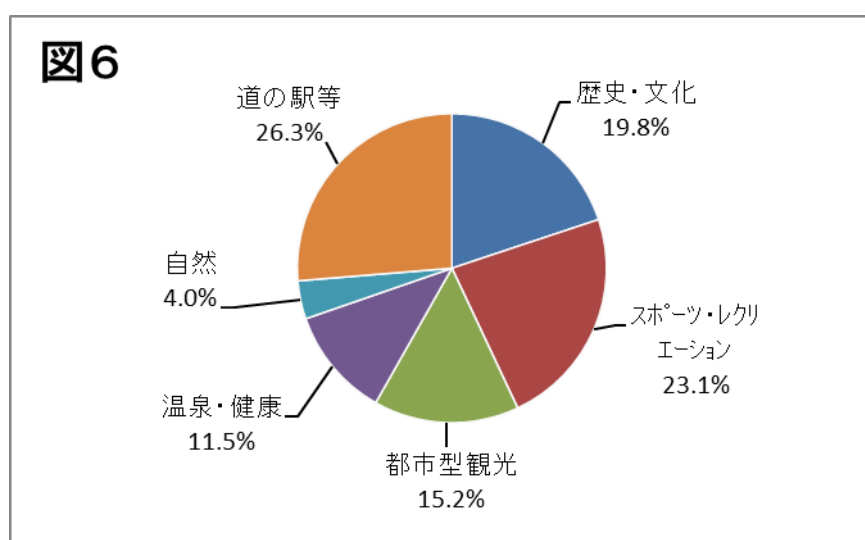


同行者別では、「団体旅行」の割合は全体の1.4%にとどまり、「家族」が67.2%と最も多く、次いで「同行者なし」が16.0%と個人旅行が主流となっている。(図5)

同行者人数別では、「(本人を含め)2～3人」が最も多く全体の67.1%を占め、続いて「(本人を含め)4～5人」が13.7%であった。

コロナ前の令和元年と比較すると、「同行者なし」の割合が10.9%から16.0%に増加したほか、「友人」が17.0%から14.1%に減少しており、新型コロナウイルスの影響により個人旅行が増加したと考えられる。

(6) 観光地分類別観光入込客数の割合



観光地分類別では、「道の駅等」、「スポーツ・レクリエーション」、「歴史・文化」の順に多く、以下、「都市型観光」、「温泉・健康」、「自然」と続く。(図3)

コロナ前の令和元年と比較して大きな増減はないが、「スポーツ・レクリエーション」の割合が19.8%から23.1%に増加した。

※観光地の分類方法については、8頁<調査の概要>参照

【平均訪問地点数と平均宿泊数】※（ ）内は前年（R3）比

○1人当たり平均訪問地点数（「観光地点入込客数（延べ人数）」を「観光入込客数（実人数）」で除したものは、**1.3地点（±0.0地点）**で、四半期別に見ると、1～3月が1.2地点（△0.1地点）、4～6月が1.4地点（+0.2地点）、7～9月が1.3地点（+0.2地点）、10～12月が1.3地点（△0.1地点）であった。

○同一施設における1人当たり平均宿泊数（「宿泊客数（延べ人数）」を「宿泊客数（実人数）」で除したものは、**1.1泊（±0.0泊）**で、四半期別に見ると、1～3月が1.1泊（△0.1泊）、4～6月が1.1泊（±0.0）、7～9月が1.0泊（△0.1泊）、10～12月が1.1泊（±0.0泊）であった。

<調査の概要>

本調査は、観光庁が策定した「観光入込客統計に関する共通基準」(平成25年3月改定)に基づき、実施したものである。

1. 調査期間

令和4年1月1日から令和4年12月31日まで

2. 調査対象観光地点等

①観光地点の定義

- ・非日常利用が多いと判断される地点。
- ・観光入込客数が適切に把握できる地点。
- ・前年の観光入込客数が年間1万人以上、若しくは前年の特定月の観光入込客数が5千人以上である地点。

②観光地点等の分類

観光地点等の分類は以下の区分による。

■観光地点	
自然	山岳、高原、湖沼、河川、海岸、海中、島、その他自然(エコツーリズム、グリーンツーリズム等)
歴史・文化	史跡、城、神社・仏閣、庭園、歴史的まち並み、旧街道、博物館、美術館、記念・資料館、動・植物園、水族館、産業観光、歴史的建造物、その他歴史
温泉・健康	温泉地、その他温泉・健康
スポーツ・レクリエーション	スポーツ・レクリエーション施設、スキー場、キャンプ場、釣り場、海水浴場、マリナー・ヨットハーバー、公園、レジャーランド・遊園地、テーマパーク、その他スポーツ・レクリエーション
都市型観光 一貫物・食等	商業施設、地区・商店街、食・グルメ、その他都市型観光一貫物・食等(農水産品の直売所、物産館等)
道の駅等	他に分類されない観光地点(道の駅、パーキングエリア等)
■行祭事・イベント	行・祭事、花見、初詣、花火大会、郷土芸能、地域風俗、博覧会、コンサート、スポーツ観戦、映画祭、コンベンション・国際会議、他に分類されない行祭事・イベント

3. 調査プロセス

(1) 観光地点等入込客数調査

統計の基礎となる観光地点等ごとの入込客数（延べ人数）を把握する。

(2) 観光地点パラメータ調査

県内の20観光地点を訪れた観光客を対象に調査を行い、属性別の構成比、平均訪問地点数、平均消費額単価などのパラメータを算出する。

(3) 観光入込客数（実人数）・観光消費額単価・観光消費額の推計

上記（1）、（2）及び観光庁より提供される以下のデータを用いて推計する。

- ・観光目的別・居住地別の宿泊観光入込客数
- ・ビジネス目的・県外の日帰り観光入込客数
- ・観光目的別・宿泊／日帰り別の訪日外国人の観光消費額単価
- ・ビジネス目的・宿泊／日帰り別、県内／県外別の観光消費額単価
- ・観光／ビジネス別、県内／県外別実家・キャンプ場等利用補正係数